

第2学年 社会

【資料をもとに、根拠を見つけながら課題を追及している姿】をイメージした授業

東和中 先崎 貴徳

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	見通す。 考える。	江戸中期の人々の生活はどのように変わっていくか予想している。 農具の進歩が農村をどのように変えていったかを考えている。	武士、百姓、町人などの立場から予想している。(態) 各地に特産物が見られる要因を農業の進歩と関連付けて考えている。(思・判・表)
2	調べる。 対話する。	三都の特徴を調べている。 なぜ、交通網が発達したかを考えている。	交通網の発達を都市や商工業の発達と関連付けて説明している。(思・判・表)
3	調べる。 対話する。	徳川綱吉の行った政治のあと、社会がどのように変わっていったかを話合っている。 元禄文化の特徴を調べている。	綱吉後の幕府の政治的課題を捉えている。(思・判・表) 元禄文化の特色を理解している。(知・理)
4	調べる。 対話する。	享保の改革の内容を調べ、評価している。	享保の改革の内容を理解している。(知・理)
5	考える。 対話する。	話し合いを通じて、一揆や打ちこわしが増えていった理由を多角的・多面的に考えている。	貨幣経済の浸透がなぜ百姓にとって厳しかったか、説明している。(思・判・表)
6	考える。 対話する。	田沼の政治と寛政の改革を評価し、長続きしなかった理由を考えている。	田沼の政治と寛政の改革の内容を評価し多面的・多角的に結果を考察している。(思・判・表)
7	考える。 対話する。	大塩の乱や外国船の出現は幕府政治にどのような影響を与えたか資料をもとに考えている。	大塩の乱や外国船の出現が幕府にどのような影響を与えたか、天保の改革と関連付けて説明している。(思・判・表)
8	調べる。 考える。	タブレットを使い、化政文化期の学問や文化を調べている。 教育の普及など、社会の変化との関わりを考えている。	社会の変化の中で発展した学問や作品について意欲的に調べている。(態)
9	振り返る。	幕府の政治改革と社会の変化のイメージマップを作り、整理している。	社会の変化と幕府の政治改革を関連付けて、時代全体を説明している。(思・判・表)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- 財政再建の視点から、改革の内容について根拠をもって評価させる。

- 見通しをもって学習に取り組むことができるよう授業の流れを提示し内容を焦点化する。

<授業の流れ>	
15分 (班)	① 2人の行った政治内容を調べて、評価する (教科書・資料集・タブレット等を用いて)
10分 (全体)	② それぞれの政治の良い点と残念な点を予想する 各班の発表をもとに確認する

- 教科書や資料集でそれぞれの政策の内容を確認します。
- 政策ごとに評価します。評価するときはそう考えた理由を考えてください。

- 改革の内容を資料集や教科書を使って調べ、改革の効果のあった点や評判が悪かった点について、根拠を明確にさせながら考えさせる。



- S1 この帰農令とは何ですか。
T 漢字の意味を考えて、教科書を読んでみてください。
S2 「江戸に働きに来ている百姓を農村に返す」ですか。
T 正解です。
S1 お金のない百姓は自分の村に帰れないのではないのでしょうか。
T この史料を見ると、「幕府が百姓に旅費を出すこともある」と書いてあります。評価のポイントとして考えてみてはどうですか。
S1 百姓が農村で米作りに専念できれば年貢収入は安定すると思うので、良いと思います。
S2 旅費を幕府が出すということは、かなりのお金を使うから、財政再建の視点からみると効果が薄いのではないのでしょうか。
T 将来的なことも考えてはどうでしょうか。

- それぞれの改革内容を「農業」「商工業」「その他」に分類する。財政再建の視点から考えさせる。

<生徒のワークシート>

1 改革の内容を評価しよう

改革名	田沼の政治	寛政の改革
行った人物	田沼意次(老中)	松平定信(老中)
内容	1 株仲間奨励 2 長崎貿易の開拓 3 印旛沼の開拓 4 蝦夷地調査(怪物)	1 帰農令 2 商品作物の制限 3 村にコメの備蓄庫を作る 4 朱子学以外の学問禁止 5 倭約令 6 出版統制
財政再建のポイント	商人(商)を中心収入を得る	百姓(民)を中心収入を得る
良い点	商業の繁栄 学問・文化の発展 お金の集まる	財政がなくなり、政府が楽になる 株仲間、武士の働きがなくなった 貨幣経済の発展、農村に蓄積の蓄積が促された
残念な点	印旛沼の開拓失敗 - お金が足りず、1710年に行けず 会(銀行)の設立	厳しすぎた 百姓の反感を買った 農村に蓄積の蓄積が促された

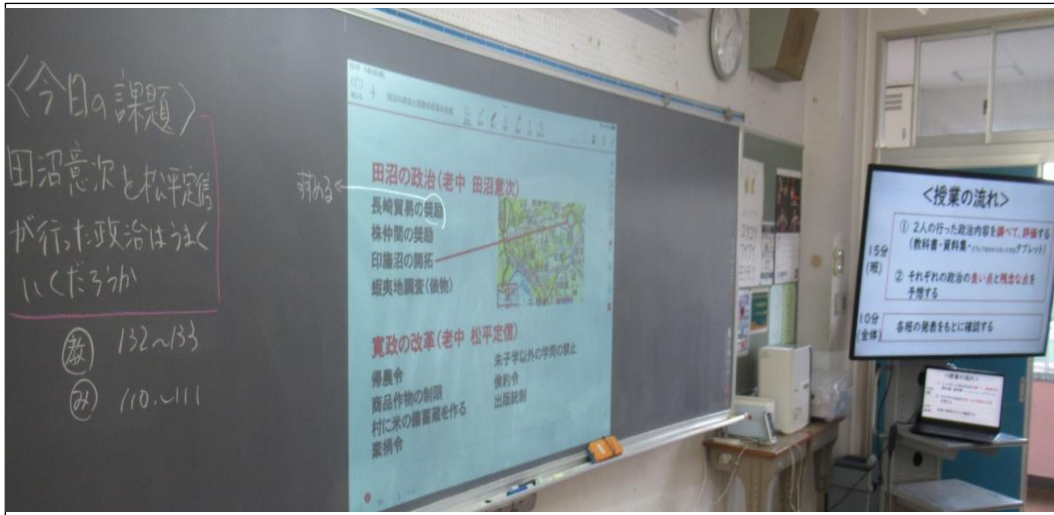
視点II【学びの連続性につながる振り返り】

- 田沼の政治と寛政の改革の内容と結果を再考し、社会の変化と関連付けて説明することができる。

<生徒の振り返りから>

田沼の政治は、お金が集まり内容は良いが、消費も多く、賄賂政治が横行したので失敗だと思います。寛政の改革も、内容は悪くないと思いますが、厳しすぎて人々の反感をかってしまいました。どちらも財政を立て直そうとしているのはわかりますが、うまくいかなかったのが、政治を立て直すことは難しいことだと思いました。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

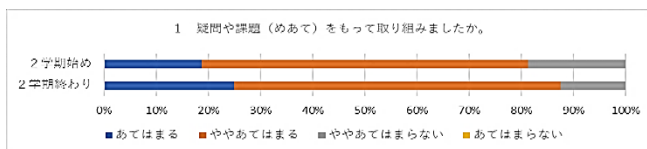


<板書構成の意図>

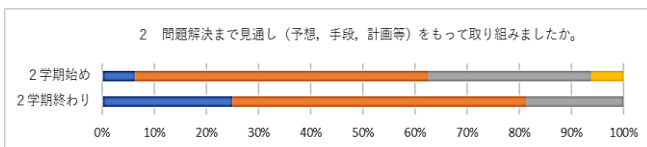
- ・ 上段に「田沼の政治」、下段に「寛政改革」を配置し、比較しやすいようにした。
- ・ 生徒のタブレットに黒板と同じ画面を配布し、手元で見ることができるようにした。
- ・ サブモニターを補助的に使用し、資料などを提示した。

3 アンケートの結果から

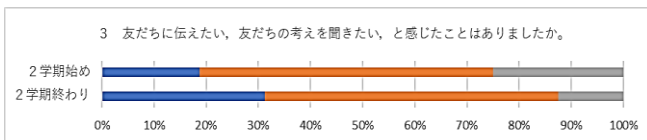
① 関心・意欲, 課題意識



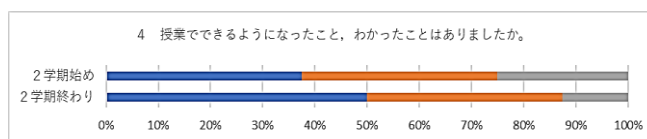
② 見通し



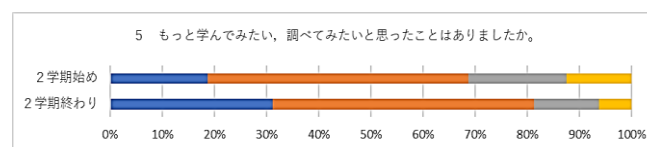
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ(学びの連続性)



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 生徒は資料からそれぞれの政策の内容を理解し、各政策の良い点や評価の悪かった点について、根拠を明確にして伝え合うことができた。
- 全体で各班の評価を確認する場面では、「帰農令」について根拠を見いだせず困っている班があったので、全体で取り上げ、考える場面を設定した。「百姓への旅費支給」に対する意見のやりとりによって

より根拠を明確にすることができ、最初に考えた評価を変える班もあるなど全体でも評価の根拠を明確にすることができた。

- 評価する政策が多く、それぞれの内容で調べていたため、全体で確認するまで時間がかかった。各政策については、簡単に解説をして内容を理解してから評価させるか、前時に内容を調べさせてから本時を位置付けるなど、どこに焦点を当てるかを明確にした単元構想や授業構想が必要である。
- 時代背景や人物像への興味を高める導入を行い、改革の結果を知りたいという追究意欲を高めて学習に入ると更に効果が高まったと考える。また、幕府の立場から考えるなど、生徒の考える視点を明確化することで、事実と背景を関連付けて学ぶことができたと考える。

【視点Ⅱ】

- 田沼の政治と寛政の改革における財政再建政策は効果があったことを理解した生徒が多かった。また、資料をもとに根拠を明確にしたことで、効果があった点や評判が悪かった点を整理して結果を考えることができた。
- 本単元では、都市や農村で産業が発展し、貨幣経済が広がっていくことを学習したが、あまり社会の変化と幕政改革を結びつけて考える姿は見られなかった。幕府の立場だけでなく、商人や百姓の立場から考えるなど、いろいろな視点を与えることでさらなる見方・考え方が広がると考えた。

実際の指導案はこちらへ